



ジェントルハート通信

No.66

2021年秋号

発行:NPO法人ジェントルハートプロジェクト 発行日:2021年12月10日

URL: <http://npo-ghp.or.jp> Tel. +Fax. : 045-845-3620(小森)

定価:100円(会員無料)

「コロナ禍に思う」

理事 小森美登里

コロナ禍の初期に“ネット上でマスク1ケースが1万5千円で取引されている”というニュースを初めて目にしたのは、私が今から講演に出掛けるという直前のことでした。その講演会の冒頭で「皆さんご存知ですか？マスクが今・・・」と話した所、多くの方が隣の人と目を合わせ「エッ！」と驚き会場がざわつきました。皆で支え合わなければならない時に・・・と、大変悲しい思いをしたあの頃から2年近くの時が過ぎました。結果的に私たちは長期にわたるコロナ感染状況の中で日々生活しています。一見第5波のコロナ感染が終息してきているように見えていますが、感染者が減っている事への検証も、その説明も未だ十分にされてはならず、新たな株も見つかる中、今後の感染状況にはまだまだ多くの不安を抱えている方もいらっしゃるのではないでしょうか。

その様な状況下にあっても、私たちの活動の中心である講演は細々と継続することが出来ています。また、わずかではありますが直接学校で講演をさせて頂く事もあります。その他にも、リモートでの講演やシンポジウムも経験させて頂きました。現状では講演をDVDに収め講演先へお送りするという形態も多くご利用頂いております。この形による講演会開催につきましては教育委員会や学校等、皆様の創意工夫とご協力を実現する事が出来ました。対象は児童生徒に限らず、各自治体での一般対象の講演会や教員研修にもご利用頂くまでになりました。講演は対面で直接お話しをすることによって伝わる空気感というものがありますので、当初は大きな不安がありました。DVDを視聴した皆さんからの感想文がその不安を払拭してくれました。

今般のDVD制作について、初めは全く自信が持てず、ご依頼は頂いたものの、一旦お断りしたという経緯がありました。といいますのは、私の講演、特に小学生向け講演の内容は、子どもたちとの対話を交えながら進めておりますので、それを一方向の映像として作り直すことに少々無理があるのではないか？という懸念があったからです。しかし、一度お断りしたにもかかわらず、その後もDVDでの講演を、と再度のご依頼を頂き、私としては不安ながらも嬉しく思い、ダメ元で制作してお送りしたという状況でした。しかし、主催者の方からは講演直後「映像が終わったら子どもたちから拍手が起き、心に届いていました。」というご報告を頂いたのです。うまく伝わるかとても不安でしたので、その言葉を聞いて胸をなで下ろすと同時に涙が出てきてしまいました。言うまでもなくコロナウィルス感染の蔓延はストレスだけでなく私たちに新たな発想や工夫を求めてきます。私の講演に限って言えばこのような新たな講演形態を生み出すきっかけとなり、私の中にあつた講演に対する固定観念が少し変わっていった事は間違いありません。また、今までは講演が同日に重なれば調整が大変苦

労することもあり、時にお断りしなければならないこともありました。しかし新たに1つの提案が出来るようになったと思います。コロナの蔓延は、他にも政治や経済や自身の今後の生き方等、考える事が多くあったと同時に、現場の先生や子どもたちの環境変化による混乱はいかばかりかと思いを巡らせてもおりました。

学校現場の中に居る皆様でなければ知る事の出来ない、想像を絶するものであったと思います。そこで、今回はDVDを視聴した子どもたちからの感想文を次ページ以降に紹介させて頂きましたので、子どもたちの思いを少しでも共有して頂けたらうれしいです。

ここで話題を変え、20年度文科省発表の児童生徒の問題行動調査について少し触れておきたいと思えます。国公立中の不登校児童生徒は昨年より14,855人増え、196,127人になってしまいました。しかしそれに反して、いじめ認知件数は13年ぶりに大幅に減っています。両方の数字は間違いなくコロナ感染に関連していると思えます。不登校は、感染を恐れ自宅に居る事を選択した子どもが増えたと考える事も出来ますし、いじめ認知件数は言うまでも無く先生が認知した件数ですので、リモート授業や休校期間があつたことで子どもたちとの接触が減れば、その分減るのは自然な事です。20年度の発表と他の年度の発表と比較することはかなり困難と思えますが、それでも不登校の背景と自殺の人数にはしっかり目を向け、背景を分析し、現実を知るべきだと考えます。

小中高校生の自殺は前年と比べ98人増え415人となっていて、この数字は激増と表現して間違いのないでしょう。実は、警察庁は学校からの報告を元に20年度の自殺者が507名と発表していますが、学校は全ての自殺を文部科学省に報告しているのでしょうか。この誤差が生まれる原因はどこかにあるはずですが、この誤差の根拠もはっきりしていないままで、正確にこれらのデータを分析することに無理を感じます。今日もどこかで・・・と考えると体が震えます。子どもが自殺へと追い詰められる社会を作ってきた大人が、その責任としてこの現実を変えていかなければならないと思えます。子どもたちに「いじめをするな、自分たちで何とかしろ。」ということでは済まされないのです。

私の娘の香澄は亡くなる数日前に「やさしい心が一番大切だよ」と私に言っていました。講演の中でこの言葉を伝えるとき「人は一人で生きていくことはできません。みんなやさしい心でつながってね。と天国から香澄がメッセージを送っていると思えます。」と伝えていきます。「やさしい心」綺麗な言葉だと思います。でも私自身がその意味を十分に理解しきれていないとも思っています。無意識に人を傷付けたり傷付けられたりすることもあります。それでもやさしい心でつながり続けたいと願い、もう少しこの活動を続けていこうと思えます。

「DVDによるジェントルハート講演会での感想文」

◆ 小学6年 女子

いじめってどんなに辛いかがよく分かりました。今、生きている1人一人の命から守って、いじめをするのはぜったいにいけないこと。というのを伝えたいです。いじめをしたら必ず誰かが見ているということを知ってほしいです。

今日知った事実はとてもつらくて悲しい出来事でした。でも事実を知った私たちが世界中の人に、いじめは絶対してはいけない伝えれば、たった一つの内いじめでもなくなるかもしれない。たった一つの内いじめだと思える人もいるかもしれない。でもたった一つの内いじめをなくして、そしてたった1人の命でも守れるかもしれない。いじめをされた人ががまんするのではなく、いじめをした人がやめないといけないということが分かりました。

私と同じ世の中に生きている人で、こんなに辛い思いをしていた人がいる。こんなにひどいことをしている人がいる。つらい事実を知りました。今思うのは自分もされるかも。という不安もあります。今自分にできるいじめを止める方法を考えないと、という守りたい気持ちでいっぱいです。いじめをされて死にいたった人が一番つらい。でもそれと同じくらいつらいのは一緒に生きてきた家族のひとなんだなと思えました。長い間苦しめられていた人はとてもつらくて、どんなことよりも一日がとても長く感じるんだ。と分かりました。

いじている人の気持ちはどんな気持ちなんだろうなと思えました。みんなでいじめを止めて、誰もが楽しく平等に過ごせる世の中を作りたいと思えました。

◆ 小学6年 女子

私も4年の頃にいじめを受けていました。変なあだ名を付けられて、最初は一部の人にしかそのあだ名で呼ばれませんでした。そのあだ名はどんどん広まり、最後には、いつも仲良くしていた友だちにまで、そのあだ名で呼ばれるようになりました。自分はいやでしたが、みんなにきらわれるのがいやだったので、笑顔でそのあだ名を受け止めていました。両親には心配をかけさせたくなかったので嫌とも言えず、いつも私の話を聞いてくれるのは、お気に入りのぬいぐるみだけでした。毎日行きたくない学校に笑顔でおくりだしてもらい、きて欲しくもない休み時間になり、毎日が私にとって地獄でした。「死にたい」と毎日思いました。でも私には死ぬ勇気は無く、ただ毎日地獄をあじわう日々でした。でも6年生になり、信頼できる親友を見つけ、今は毎日が楽しいです。

今日の講演会では最後にあった亡くなった人たち

の詩や遺書などを聞いて、私は涙が出てきました。「なぜ、みんな同じ人間なのに見た目などで判断されないといけないのだろう」と。いま、死にたいと思っている人や、いじめにあっている人は、勇気をふりしぼって大人の人に相談することを、私はオススメします。

◆ 小学6年 男子

いじめは、本当に人の心に大きい穴を開けてしまう。面白半分でいじめをしている人も、やられている人の身にもなって欲しいと思います。いじめは、人を死まで追い詰めるから、できる時は、親や大人を頼った方がいいと思います。

◆ 小学6年 女子

いじめで辛い思いをしている人がいること、それがまだなくなっていないことは知っているけど、いじめられている人の気持ちは分からない。頼れる人にいじめられていることを言わない人っていうのは「弱い人」なんじゃなくておおごとにしたくない、とか迷惑がかかる、とか心配かけたくない。という人が言わないのかな、と思った。

頼ってくれた人にどう接すればいいのかは「よりそってあげること」だけではなく、「心や体が傷ついた原因を取り除く」ことが大切なのだと感じた。自殺した女の子の「優しくできる心を持っていない人のほうがかわいそう」という言葉、確かにそうだなと思った。自分は「いじめのない世界」があってほしいとは思いますが、無くなることは難しいと思っている。人には心があるのだから悪い心もあって当然。ただだからといって自分はいやがるクセに他の人にそれをする。というのはひどいと思う。でもそんなことを思っている自分もそういうことをしてしまったことはある。どんなに小さなことでも、それが大きなことになればいじめにつながる。だから私は「たちば」を置きかえて考えようと思う。でも失敗していやみなことを言ったりしてしまうこともあるかもしれないが、その時は自分で気づいて反省して謝れる心を持ちたい。



◆ 中学1年 女子

人には幸せに生きる権利があるということに改めて気がついた。いじめはしてはいけない。”いじめをされている人ではなくて、いじめをしている人のほうがかわいそう。”その言葉が私に響きました。いじめをしている人は”幸せに生きる権利がある”ということに気づけていないのだもの。幸せに生きる権利があるということに、みんなが気づけていければ、いじめをする人も、自殺をしてしまう人もいなくなると思いました。私もこの話を聞くまでは、テレビを見て思っていたのです。いじめをする人にも、される人にも理由や原因があると・・・

いじめは最初はすごく小さな事から始まります。そしてそれが広がり、多人数になり、心の傷が大きくなってしまいうということ。私も母から”自分がされて嫌なことは絶対に人にはしてはいけないんだよ”と教えられました。”人は生まれながらに自由に羽ばたく翼を持っている。言葉は人に影響を与える”その言葉は私の心に刺さりました。これからも明るい未来を、今度は私たちが開いてこうと思いました。

◆ 中学1年 女子

講演会で映像を見て、私はこの人たちにかぎらず、他の人もいじめにあい、自殺してしまっているのかなあと思いました。そして、そのいじめの状態がなくならないかなあと思いました。みんながみんな同じ考えを持っているわけではないけれど、いじめがおきないようにしよう、している所を見たら止めよう、もし自分がしていたらやめよう、いじめはおきてはいけないことだと知って欲しいです。

そしていじめをしている人には、今自分がしているいじめから、取り返しのつかない事がおきるかもしれない。自分がしていることは罪だ。自分がやられている立場になったらどんな気持ちになるのかということを知って欲しいです。

◆ 中学1年 女子

いじめについて元々知って来たかったので、改めて色々な事を思った。いじめられる人に原因はなくても、いじめてしまう人を育ててしまう社会を直さないといけないと思いました。今は人間関係など、大変な時期だけど、友達や家族など、これからも優しい心を持って接していきたいと思いました。今、この瞬間にもいじめで苦しんでいる人、亡くなってしまう人がいるかもしれない。亡くなった人たちが何を伝えたかったのかをしっかりと考え、広めていくことがいじめをなくすことにつながると思いました。

自分はいじめている人を見つけても、きっと、どうしていいのかわからなくなると思うけど、このようなプロジェクトなどを知って、少しずつ行動や思いを変えていきたいです。そして、いじめられている人、

いじめている人に何か声をかけて、変えていきたい。傷つく人を、亡くなる人を少しでも減らしたいです。いつかいじめのなくなる日が来るといいです。

◆ 中学2年 女子

心優しい何も悪くない人がいじめで亡くなるなんて、あってはならない事だと思うし、今世の中で実際にこのような事が起きているという事実、今もどこかで誰かがいじめで苦しんでいるのかなと思うと、とても胸が苦しくなります。今回の講演会で改めていじめについて深く考えることができました。もしかしたら、この学校でも、このクラスでも、いじめにあっている人がいるかもしれない、傷ついている人がいるかもしれない、今なくてもこれから起きてしまうかもしれないと考えて、周りに関心を持って異変などに気づける人になりたいです。

◆ 中学2年 男子

私はイジメがなくならないという事実がとても悲しく、悔しいことだと思いました。なぜ罪のない人がいじめられて死ななくてはならないのでしょうか。”いじめられる方にも問題がある”これはとても間違っていると思いました。どんな理由があろうと、イジメて死へと追い込むことは絶対にあってはならないことだと思います。また、イジメを受けている人がいたら、できる限りサポートしていこうと思えました。ほうれんそう（報告・連絡・相談）を大切にしていって、少しでもこのような悲しいことが起きないようにすることを願います。イジメによって亡くなった人々のご冥福をお祈りします。

◆ 中学3年 女子

今回、この講演会で”生きる”ということにこんなにも価値がある事に気づかされました。そしてたくさんの人に支えられている、愛されているということに感動しました。私も何度も苦しい、辞めたい、私って生きる意味があるのかな、と感じることがよくあります。けれど、今日の講演会で、自分にも自由に生きる権利がある。生きる意味があることに気づかされました。もう一つ、自分は今、いじめを受けていませんが、この世界には今、いじめを受けている人がいるということを知りました。話題の中心だった香澄さんの話を聞いて、私は胸がいっぱいになりました。人には、誰にでも自由に生きる権利があるのに、それを邪魔するような人たちがいることも悲しいです。このようないじめを周りで見かけたら、止められるような、相談に乗れるような優しい心の持ち主になりたいと思いました。

◆ 高校1年・女子

私もいじめを受けていたことがあるので、今回の講演会がとても心に残りました。

私は、小学校の時に容姿のことでいじめられていました。最初は可愛くない、顔がうざいなどと言われていました。その後、だんだんとひどくなっていき、生きている意味がない、死ねばいいのと言われてきました。とても悲しくなりました。そのときは、いじめの加害者の子に謝られ、この話はなかったことになりました。自分は長い間傷ついていたのに、謝られたのは一瞬で、担任の先生にも、この話は無かったことになりました。悔しかったのを今でも覚えています。もうたえられなくなった私は親に『何でもっと可愛く生んでくれなかったの？こんな顔も身体ももう嫌だ、整形したい』と言ってしまいました。そのとき、お母さんに『ごめんね』と泣きながら言われて、自分がひどいことをやってしまったことに気づきました。あの時はじめて親を泣かせてしまった自分が今でも許せません。

◆ 高校1年・女子

私はいじめのことを身近に考えたことがなかったので、この講演会を聞けてすごく勉強になりました。講師の方が”いじめの加害者にこそ心のケアが必要”と言っているのを聞いてすごく共感しました。いじめの加害者は誰かをいじめないと普通の生活が送れない人達です。もちろん被害者の心のケアも必要だと思いますが、それ以上にこのような人(加害者)にこそ心のケアが必要だと思いました。

◆ 高校1年・男子

僕は昔から「いじめ」はしてはいけないことだから、仲の良い友達との冗談まじり悪口は言っていたが「いじめ」まで行く限度はわかっていたつもりだったが、話を聞くと、ちょっとしたいじりも相手が傷ついている可能性があるということを知り、おさえようと思った。自分がしたいいじめはあまり覚えていないものだけど、いじめられた側は一生覚えているということがとても印象に残った。いじめは絶対にしてはいけないものだと思つて改めた。いじめは身体的なものもあるが、精神的なものはずっと心に残るし、何年たっても消えないものだと思つた。

◆ 高校1年・男子

からかってみた、いじってみたとっても、うけている方はそんな甘い考えでうけとっていない。言葉は暴力より重い。自分はいじめられている方も悪いとは思いません。何か自分にとって嫌だなと思つたことをされても、イジメをしていい理由にはならないからです。何かいやな事を言われて、笑つてごまか

せる人間だけじゃないと言うことを知りました。地球にはいろいろな人間がいるという事をよく考えて、発言や行動をしていきたいし、してもらいたいと思います。仲が良いから言えるというのではないと思います。仲が良くても言われれば傷つくし、だから言葉というものを簡単にとらえてはいけないと思います。

◆ 高校1年・男子

今まで生きてきた中で身近にいじめは起きませんでした。しかし、それは問題にならず、公にならなかつただけで、知らない所で何気ない行動や言動で傷ついたり、苦しんでいたりしたのかもしれないと今回の講演で気づきました。実際、自分はイジられる方で、それを受け入れているので、ふだんはなんとも思いませんが、たまに言われたくないことや触れられたくないことに触れられる事もあります。自分はその時、態度に出してやめてほしいという事を伝えられるのですが、もしかしたら、やめてほしいという事を伝えられず、自分の中にためこんでしまっている人もいるかもしれない。そして人はためこみすぎるといつか壊れます。それを感じとれる人間になりたいです。そして様子が変わるとか、やりすぎたと思つたときには迷わずやめさせる勇気のある人間になりたいです。

◆ 高校3年・女子

いじめは実際に自分たちの身の回りでおこつたことでないから、無関係に思いがちですが、本当はすぐ底にある大きな問題だと思つた。自分に全く関係のないことと思つているのは大きな間違いで、何かたつた一つのできごとで、加害者にも被害者にもなりうる、とても怖いことだと改めて感じました。加害者になるつもりはなくても、加害者になってしまうことは、ありえないことではないです。

普段の生活からのふとした瞬間もいじめにつながつてしまいます。幼稚園生、小学生から教わつてきた「人には優しくする」「人が傷つくようなことはしない」というのは、当たり前のことだからこそ、忘れてしまいがちです。でも、人間が生きていくうえで、基本となることはいつも幼稚園や小学校で習つてきたようなことばかりです。それにプラスするように、おとなになるにつれて、小さな頃より人の気持ちの根の部分まで気づいてあげられるようになっていたり、我慢ができるようになった人々の表情の裏側に気づいてあげられるようになるべきだと私は思います。

小さな頃に教わつたようなことは、人間が生きていくうえで、決して、忘れてはならないことだと思つた。

8月に行われたオンライントークの動画が東京都人権啓発センター様からアーカイブ配信されることになりました。是非皆様にご覧頂きたいと思いましたので、チラシを紹介させていただきます。

心と体を傷つけられて亡くなった天国の子供たちのメッセージ展・オンライントーク



オンライントーク「コロナ禍で考えるいじめ問題」 アーカイブ配信のお知らせ

出演：下村健一さん、山崎聡一郎さん、小森美登里さん

東京都人権プラザでは、2018年からNPO法人ジェントルハートプロジェクトの協力を得て、いじめ等により心と体を傷つけられて亡くなった子供たちのメッセージ展を開催してきました。このたび、人権週間を迎えるにあたって、2021年8月に開催した本展オンライントーク「コロナ禍で考えるいじめ問題」を、[YouTube\(公財\)東京都人権啓発センター公式チャンネル](#)にて再配信する運びとなりました。この機会に、ぜひご視聴いただきたく、ご案内申し上げます。



公式チャンネルは
↑こちらから

2021年12月4日、配信スタート！

前半46分・後半49分

[YouTube\(公財\)東京都人権啓発センター公式チャンネル](#)
にご登録ください。

◆ 活動のご報告と今後の予定 ◆

日付	主催者	都道府県	都市	人数
2021/9/1	野田市立木間ヶ瀬中学校(DVD)	千葉	野田	420
2021/9/7	白山市立明光小学校(DVD)	石川	白山	80
2021/10/8	鹿児島県教育委員会高校教頭研修(DVD)	鹿児島	鹿児島	90
2021/10/29	箱根町立箱根中学校	神奈川	足柄下郡	70
2021/11/12	岡山県立総社高等学校(DVD)	岡山	総社	850
2021/11/17	柏市立土中学校(DVD)	千葉	柏	250
2021/11/30	高梁市立川面小学校(DVD)	岡山	高梁	50
2021/12/6	岡山県立倉敷中央高等学校(DVD)	岡山	倉敷	330
2021/12/23	新見市立大佐中学校	岡山	新見	70
2022/1/7	八王子市立館小中学校教員研修	東京	八王子	32
2022/4/16	豊昭学園	東京	豊島	430
2022/4/20	藤嶺学園藤沢中学校1年生	神奈川	藤沢	110
2022/6/6	川崎市立田島小学校	神奈川	川崎	170

【 会員の皆様へ 】

新型コロナウイルスの収束がなかなか見通せない中、直接皆様の学校等に伺ってお伝えすることが出来る講演の数は激減し、以前のレベルまで回復する見通しは未だ立っておりませんが、DVD利用によって細々とはありますが、皆さんに講演をお届けしている状態が続いています。未だ先行きの見通せない中、新たな活動の広げ方も見つけていかなければならないと考えつつも、当面はDVD利用を並行して、走りながら考えていきたいと思っています。

一部正会員の皆様にはお伝えしておりますが、今コロナ禍での会費納入に関わる件について、ほとんど活動が出来ていない現状を鑑みて、会員の皆様におかれましては会費納入期限を全て2年間延長させて頂くことに決定致しました。また、コロナ問題に目処が立ち、本来の活動がある程度再開できるようになりましたら、改めてご案内させて頂きたいと思っております。

若者の自殺者数の増加や各地でいじめに派生する事件などが報道される中、本来でしたらより多くのコメントを出さなければならない事態と思いつつも、なかなか発信出来ないことも気になっております。件数は少なくなりましたが、メディアからの取材等も入ってきておりますので、その中でもできる限りの発信をしていきたいと考えております。

これからもいじめに関わる様々な問題をしっかり見つけ、多様性を持つ子どもたちすべてがストレスなく生活していくために、何が大切で、何をしていくことが必要かを考えながら、従来からの活動を淡々と続けていくことが私たちの進むべき道と信じ、歩を続けていく所存です。

コロナ禍によって大きく毀損し続けている私たちの生活と心。その中であって私たちは“優しい心”（ジェントルハート）のメッセージを発信し続けることによって、心の問題を中心に、皆さんと“子どもの明るい未来について一緒に考える時間”が共有できればと思っています。